

照陽の家だより

書中お見舞い申し上げます

梅雨明け後、猛烈に暑くなりました。35度、36度前後の外気温での活動には言葉もありませんが皆様いかがお過ごしでしょうか？

希望と活力に満ちた2020年がコロナ禍による緊張感と不安感に溢れ、動きが取れない年になるなどこの新春には誰も想像さえしませんでした。利用者様、ご家族様、関係者の方々にも照陽の家 ひなたぼっこ保育園の感染予防対策をご理解頂き継続してご協力をお願いしています。私達は感染対策をしっかりと行う中、出来るだけいつもと変わらぬ笑顔とゆったりした空気の中で活動を行うよう意識しています。先日、園児が「てるひ花壇」の隅で濃い緑色の縞柄すいかが実っているのを発見！！きゅうりも収穫し小さな手にしっかりと握りしめながら調理員さんに手渡ししその日の食卓へ・・・このささやかな日常を守るのは私達一人一人の意識でしかないと改めて思います。奇しくも今年は被爆から75年目の夏。命を守る活動自粛の中で人間にとって「平和と人間の命とは？」を考える岐路に遭遇した夏のように思えてなりません。息を詰めながら過ごすこの夏先の清々しい秋を期待しながらどうかご自愛下さいませようお祈り申し上げます。

施設長 三代 富士子

照陽の家は住み慣れた地域において、高齢者の方、お子様、地域の方、誰もが集い、多様なサービスや活動の中で支え合う拠点です。

ひなたぼっこ保育園の日常

米子市地域型小規模保育



今月の言葉

私たちは意志を持って、自分の生きる道を作ることができるのです。

～ホセ・ムヒカ～

☆令和2年度 第1回 運営推進会議をやっと開催!!

コロナ禍で1月以降、中止していた運営推進会議を7月17日（金）午後15時より照陽の家内 お日様交流室で開催しました。

出席者は米子市長寿社会課、米子市義方湊山地域包括支援センター、米子市角3自治会長、灘町自治会長、錦町自治会長、各民生委員、照陽の家関係者など計13名でした。委員の皆様とは半年ぶりの再会でまずは元気にお会い出来たことの喜びと尽きぬ話題に盛り上がりました。

議題としてはこれまでの運営・活動状況と共に今回は医療依存度の高い独居の方の事例を取り上げ「住み慣れた地域での暮らしとは何だろうか？」という事を一緒に考えて頂く機会を提供しました。意見の中で「この発表が今後、自分として置き換えて考えていかねばならない」「介護保険が始まる前に家族を介護していたが本当に大変だった・・・」など昔を思い出される委員もおられ、合わせて認知症、地域生活、独居について考えさせられる**事例検討会**となりました。次回は9月を予定しています。



★米子市長寿社会課、米子市義方湊山地域包括支援センターからニュース!

① 自宅での骨折が増えています

最近ではコロナの影響で運動不足から自宅やグループホームで転倒され、病院に運ばれる方が急増しているようです。外出を完全に避けるのではなく大人数を避けた運動の機会を作り予防に努めていきましょう。

② 地域でフレイル対策!

4月より米子市健康対策課の保健師が増員され各地区に担当保健師が配置される予定です。最近では40代から60代の介護認定者も増えているため幅広い年齢層が参加出来るフレイル対策（身体・精神・社会的虚弱の予防）を企画中です。詳しくは米子市健康対策課まで。

照陽の家の日常

